

女性呼吸器外科医として思うこと

やる気のある人達が気兼ねなく外科系進路を選択できるよう、その基盤の一員として自分も頑張っていければ

女性呼吸器外科医として何か書いてみませんか、とのお誘いがありこのたび投稿させていただくこととなりました。胸部外科のエキスパートの方々が掲載されるなか大変恐縮しておりますが、同時に大変嬉しく思っております。

私は、現在、千葉県がんセンター呼吸器外科で勤務しております。11歳と5歳の娘二人を育てながらであり、夫の他に子供達の面倒をみる者がいないため大学医局や同僚の先生方のご厚意のもと日勤のみの勤務とさせていただいております。勤務中は時間ギリギリまで仕事を頑

張り、家に帰れば食事などはコンビニ・ファミレス大活用の超手抜き育児の毎日です。しかし、日々の仕事にやりがいを感じ、続けさせていただいていることに大変感謝しております。

普段、呼吸器外科の仕事自体が女性に不向きだとはあまり感じませんし、自分の知っている女性呼吸器外科医の先生方は皆それぞれ活躍しています。しかし、私自身は、やはり時間に制約あることに困難さを感じています。二回の出産前後の長期休暇時は、同僚をはじめ大学医局・同門の多くの先生方に多大なるご尽

力をいただきました。現在も、長時間手術や担当症例の夜間急変時などは同僚の先生方にカバーしていただき、さらに、私の担当の手術開始時間を早めたりカンファレンスは日勤帯に行ったりと様々なご協力をいただいております、大変感謝しております。

呼吸器外科医の仕事は一人ひとりの責任が大変重く、休むと周囲に大きな負担がか

かります。先日、外科系進路も考えているという女子医学生と話す機会がありましたが、呼吸器外科に興味はあるが、出産・子育てで周囲に負担がかかることを考えるとなかなか踏み切れないとのことでした。長期休暇取得時の他医師への負担の軽減のためには人材確保が重要です。今後もやる気のある人達が気兼ねなく外科系進路を選択できるよう、その基盤の一員として自分も頑張っていければと、日々願っております。

松井 由紀子

所属施設：千葉県がんセンター 呼吸器外科

卒業大学：千葉大学

簡単な経歴：

1995年4月 千葉大学医学部肺癌研究施設第一臨床研究部門（現：千葉大学大学院医学研究院呼吸器病態外科学）に入局、千葉大学医学部附属病院等で研修

2003年3月 千葉大学大学院医学研究科修了、その後、国保松戸市立病院、国立病院機構千葉東病院勤務を経て、2009年4月より千葉県がんセンター呼吸器外科に勤務。

趣味：ピアノ演奏

好きな言葉：三日、三月、三年

